

金の髪巨乳JKギャルの  
エッチなCG集

原作シーンから派生する  
オリジナル18禁展開あり

はじめてはギャル

汗と愛液と精液で  
汁多め、全身ぐしょ濡れ

基本CG:7枚

- ・筆おろし騎乗位
- ・やりまくり正常位
- ・のりのり着衣パイズリ
- ・痴漢風後背位
- ・声我慢ドキドキ後背位
- ・大量ぶっかけオナニー
- ・上目遣い濃厚フェラ

「すっごい血走った目えして……もお……そんなパイズリ嬉しいの？」  
「アంతだつたら言えばさせてあげたのに」  
「……それこそパイズリなんかじゃなくてもっと……」  
「……なんてね」

「ねえ……あーっしのおっぴい……気持ちいいし……」  
「……でも……うっしたら……気持ちよくな……り……」



「唾で滑りがよくなつてまた違う感触が楽しめるっしょよ？  
……ふふ、アンタのアレ……ビクンビクンって暴れてる♥」  
「そんな嬉しいんだあ♥……やっぱアンタって面白いわ  
……なんっか……もつと欲望満たさせてあげたくなる感じ？」

「あ、もう出ちゃうんだよね……いいよ  
……あーっしが全部……受け止めてあげるから  
ぴゅぴゅって白いの出しちやいなって♥」



「きゃっ……ちよ、この量ヤバくない？……どんだけ溜め込んでたのさ……ま  
でもあーっしの胸でござんだけ気持ちよくなってくれたって思うと  
……ちよっと嬉しいかも♥」

「つか何終わった顔してんの……あーっしの身体は……い  
アンタのせいでもう準備OK状態なんですけどお……  
このあと滅茶苦茶セックスした。……本当に終わっちゃ





おい？

しゅぽ  
しゅぽ

しゅぽ  
しゅぽ  
しゅぽ

しゅぽ  
しゅぽ

しゅぽ

しゅぽ  
しゅぽ

もい

もい



キーン

人 口 大

ん おい おい

ん おい おい

ん

ん

「童貞卒業おめでとさん♥……どお？結構簡単だったっしょ♥」  
「余裕なさそ〜…マジウケる♥……いいよ、我慢しなくて  
……初めてのあーっし自慢のキンマンは童貞じゃ太刀打ちできないっしょ

「ほら出してっば♥……まだ挿れて一分も経ってないけど  
パンパンに張り詰めて射精我慢してる……おちんちん♥  
……スッキリさせちやいなって♥」



「んんいつ♥……膈内ですっごい暴れて熱いのどばどば出してんんん……  
アンタの精液きつとゼリーみたいに濃くて  
子宮にへばりついて取れなくなつてそう……♥」

ドクドク

「うあ……ウン……マジ？……あ「っし中出しされて軽くイってるこ

……身体の相性けつこま

……いいのかなあ？

それがあーっし……アンタのこと本気なのかも……」

「ていうかあ……まだガチガチだし♥……じゃ……続きしよ♥」

おっ







「童貞童貞ってバカにしてごめんなさい……マジで謝るから……だから少し休ませて……イキすぎて体中クリみたいになって……またイクプロ……イッちゃう……」  
「イッちゃう……」

「イッてるから突いちやらめえ……マジで……」  
「頭バカになる……」

「お……」

「ぐ……」

「お……」

「お……」

「お……」



「好き……超好きだよ♥マジで愛してる♥」  
「言葉じゃ足りない……これから毎日……アンタのこと求めてもいいかな……それともあーっしみたいなのじゃ……ダメ？」

「うん♥」  
「疲れ果ててそのままぐっすり添い寝をした。」





おんが木交の音  
聞かされた？

え？なに？

声出さうか

やばい



アッアッアッ

アッアッアッ

アッアッアッ  
像業力席  
向ち去う船

アッアッアッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

ここはとある電車内。人が寿司詰め状態のせいで  
空調が意味を成さず、皆玉のような汗を流していた。

「……ちよ……本気い？……こんなところで挿れるとか……んっ  
一人の豊満な体付きのJKがボソボソと男に訴えかけていた。」

「信じらんない……絶対許さない……あダメえ……声出ちやうううんっ  
男は器用に電車の揺れを装ってJKの膣内を肉棒で攻め立てる。  
JKの反抗を行為で制圧し、そしてフェイクシチュを決めた。」

「……お出口は左です……乗り換えのご案内……中出ししてるしいい……マジありえな  
……ごまでして分かってるんでしようね……許さないついでに……」

電車は間もなく駅に着いた。JKが押し付けられていた扉が開き、  
JKは人混みと一緒に外に押し出された。JKはもう……誰も居なかった。



「アニメ第一話のあのシーン」

「王子ない童貞の俺は友人の悪ふざけでクラスメイトのギャルに土下座告白  
意を決してギャルを学校裏に呼び出して土下座告白をするが、  
その際にギャルのパンツを覗いてたことがギャルにばれ、絶体絶命のピンチ」

ホッ……

じー

む……

見た……んぞ……?

……

「ギャルは俺に近寄って来て、俺の前で股でしゃがみ込んだ！」

「ねえ、今しゃがんでるからさっきより見やすいよ……?」

「覗き行為を糾弾するかと思いきや、なんと逆に覗けと挑発してきた！」

「俺は誘惑に勝てず、そろそろと視線を下に落とす。」



「あははガン見してるう〜キモい〜マジウケるんですけどお♥」  
「パンツ見るのそんな嬉しいん?…それとも…くぱあつてしてるから?」  
「…そうだよ…アソコ開いてるからパンツ無かつたら中の色まで丸見え  
ちなみにピンク色だよ…何がとは言わないけどさあ♥」

「ふふ、ますます興奮してるし♥」  
「っつかさ…あトっしも見せてんだからアメンタも見せてよ〜」  
「何をつてそれ…さつきから立派なデント張ってる…その童貞包茎お



「うあ……へへ……本当に見せるとかアンタやっぱ面白いわ♥」  
「ほれ、童貞の性欲見せてみ……シコシコってオナってみ？」  
「あーっしをオカズにしてぴゅぴゅって白いの出すとこ見せて〜♥」

43 心死

「凄い顔でシコって……一人きりつつつてもさあ……学校でえ……」  
「このあと普通に授業もあるのに……でも後先考えず夢中になれるほどあーっしで興奮してるってこと？」  
「ああ……許可なんていらから……自分が出したい時に出しなあってえほらあしこしこ……好きなタイミングでいつちやっつて♥」

「まきやつ♡……ちよ……どんだけ……ひゃあつ……まだ出てるしい♡」  
「下心丸出しの童貞性欲弾けまくり♡……もお……制服までべとべとじゃ……」  
「……どんだけ飢えてたのさあ……まああーっしもだけどお……♡」



「……え？この姿がエロいって？マジ童貞のエロレベルって●学生みたい  
……本当にエロいアて……ことが何なのかあ……あーっしが教えてあげよっか

「あと……いいよ……何がってあーっしに告白したんでしょ？」

「……付き合おうよ……アంతタと居ると楽しそうだし」

「うん♥……じゃ、恋人の儀式的なやつしたいよ♥」

「キスじゃないってえ……それもだけどお……分かるでしょお♥」

「あーっしに告白したんでしょ？」

「アంతタと居ると楽しそうだし」

「うん♥」

「あーっしに告白したんでしょ？」

「アంతタと居ると楽しそうだし」

「どのみち……こんな精液の匂い染み付いた格好じゃ午後の授業出れないしい……アంతタは責任持ってたあーっしの家に来て来てよね……♥」

「付いて来るだけだつてばあ……着替えるために帰るんだから……ふふ♥」

その後、午後の授業を二人でサボって、ギャルの部屋に上がり込んだ俺が

童貞を卒業したのは言うまでもない。